

開講大学 青森中央学院大学

開講年次・時期	1年前期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義(一部演習)	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----------	-----	-----

科目名	「暮らしと地域」	担当者名	高橋 興
授業の概要	<p>青森という地域社会の実像について、授業担当者のコーディネートにより学外から多彩な講師を招いて話を聞き、政治・経済・文化など様々な切り口から学び、考える。</p> <p>また、講師の話を一方的に聞くだけでなく、ほぼ毎時間終了後にミニレポートを作成して提出するとともに、節目ではグループ討議なども組み入れる。</p> <p>すなわち、地域について他人の話を聞いて学び考えるとともに、「(自分の感想・考えを)書く」、「(自分の感想や意見を)発表する」などの確かな能力の育成を目指すものである。</p>		
科目の到達目標	<p>青森という地域社会にしっかりと目を向け、多彩な講師から地域の様々な姿について学ぶことをきっかけとして、自らと地域社会との関わりについて考え、それを整理して書き、発表することができるようになる。</p>		
授業時間外学修(予習・復習)	現時点では特に計画していない。		
フィードバックの方法			
単位認定の要件			
評価の方法・割合(%)	通常の授業時に提出を求めるレポート(30%)、考査として作成提出する小論文(50%)を基本として、総合的に評価する。		
履修上の注意事項	地域での様々な出来事に関心を持ち、新聞をできるだけ毎日読むようにして欲しい。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	4/10		<p>テーマ「ガイダンス」・「地域について学び考える必要性」(高橋)</p> <p>次回以降14回の講義内容の説明と、地域について学ぶことの意義について確認する。</p> <p>予習は特に必要なし。</p> <p>復習は配布されたレジュメをもとに、地域について学ぶことの意義と必要性について再確認することである。</p>	
2	4/17		<p>高橋による通常スタイルの講義</p> <p>概論「今、自分にとっての地域と暮らしを考える①」</p> <p>第5回から始まる外部講師による講義に先立ち、高橋がこれまで研究テーマとして取り組んできた中から、今日的な課題に関わると思われる2つを選んで講義し、皆さんと一緒に考える。</p> <p>地域の暮らしに深くかかわる政治と選挙～いわゆる〈津軽選挙〉など負の歴史ら、18歳有権者制の意義などを考える～」のテーマで学習します。</p> <p>〈予習〉は、「青森県」「選挙違反」「つがる選挙」でネット検索をしてみよう。それ以外のことは特に必要としない。</p> <p>〈復習〉として、予習していなかった人は、あらためて前述した予習の内容に取り組んでみよう。</p>	
3	4/24		<p>高橋による通常スタイルの講義</p> <p>概論「今、自分にとっての地域と暮らしを考える 本時のテーマは、「県人口の減少が続く中で、小中学校及び県立高校の再編統廃合が地域社会に及ぼす影響を考える」</p> <p>〈予習〉は、「青森県教育庁」のホームページ等にアクセスし、青森県における、この十数年間の学校数の減少の状況等について確認してみよう。</p> <p>〈復習〉として、自分の出身地など状況がわかる地域にある学校がなくなった場合のことを、具体的にシミュレーションしてみよう。例えば、どんな交通機関を利用して、どこ的高等学校に通学する(できる)ことになるのか、その場合に部活動などが十分できるのか、通学費用はどれくらいかなど。</p>	

4	5/1	<p>高橋による通常のスタイルによる授業</p> <p>前3回の授業における皆さんの反応等を勘案しながら、次回からの公開講座の事前準備の時間とする。</p> <p>皆さんが特に準備等をする必要はない。</p>	
5	5/8	<p>第1回公開講義「ことばで遊ぶ ことばに遊んでもらう」</p> <p>津軽弁の日の会代表の、伊奈かつべい氏による講義を聴く。その後、高橋の司会による質疑応答。</p> <p>〈予習〉としては、おもしろい津軽弁、わかりにくい津軽弁、味わいのある津軽弁などを整理し書き出してみよう。 県外出身者は図書館資料やインターネットを活用して、津軽弁のことを少しでも学んでおいてほしい。そうすれば、講義がいつそう楽しめる。</p> <p>〈復習〉として、伊奈さんが皆さんに最も伝えたかったこと、皆さんが講義を聴いて心に残ったことを400字程度で書いてみよう。</p>	
6	5/15	<p>第2回公開講義「方言から ふるさとを考える」</p> <p>南部弁による演劇活動などで全国的に活躍されている八戸市公民館長榎谷 榎谷(まさや)伸夫氏による講義を聴く。その後、高橋の司会による質疑応答。</p> <p>〈予習〉としては、おもしろい南部弁、わかりにくい南部弁、味わいのある南部弁などを整理し書き出してみよう。 県外出身者は図書館資料やインターネットを活用して、津軽弁のことを少しでも学んでおいてほしい。そうすれば、講義がいつそう楽しめる。</p> <p>〈復習〉として、伊奈さんが皆さんに最も伝えたかったこと、皆さんが講義を聴いて心に残ったことを400字程度で書いてみよう。</p>	
7	5/22	<p>第3回公開講義「津軽の伝統芸能について」</p> <p>津軽三味線は青森県の伝統的な芸能の一つであり、県内には多くの奏者がいる。 その代表的な奏者の一人である鳴海明仁による演奏とトークを聴く。 〈予習〉図書館を活用するなどして、故人だが青森県を代表する三味線奏者として著名な前記の故人・山田千里や高橋竹山(ちくざん)のことなどを調べてみよう。</p> <p>〈復習〉鳴海氏が演奏の合間に話した津軽三味線に関する様々なことを整理してみよう。</p>	
8	5/29	<p>高橋による通常の講義 公開講義の振り返りを中心とする。</p> <p>格別の準備を必要としないが、直前の数人による講義の内容によっては、事前のレポート等の作成や提出を求めることもある。</p>	
9	6/5	<p>第4回公開講義「地方紙の挑戦」</p> <p>青森県最大の発行部数を誇る「県紙」ともいえる東奥日報社の取締役編集局長による講義を聴く。</p> <p>近年、新聞購読者が激減したと指摘されることが多い。なぜか？この機会に改めて考えてみよう。</p> <p>講義の内容を踏まえた、ミニレポートの作成・提出を求める計画である。</p>	
10	6/12	<p>第5回公開講義 県内在住の作家・高森美由紀氏による「ここにおいて書くということ」と題する講義を聴く。</p> <p>〈予習〉できれば、事前に講演者の著書を一冊でも読んで欲しい。</p> <p>〈復習〉町立図書館勤務をしながら、数々の受賞をした生活について考えてみよう。 また、事前に著書を読めなかった人は、講演後でもぜひ4で欲しい。</p>	

11	6/19	<p>グループワーク(公開講義⑧～⑩までを中心とした振り返り)</p> <p>予め編成したグループに分かれる～</p> <p>①まず、各人が作成したメモをもとにしながら、直近3回の講義の中で誰の講演が最も印象的であったかについて発表し、ディスカッションを行う。</p> <p>②時間が短いので、グループでの事前準備など、内容の濃いものになるよう工夫をして欲しい。</p> <p>③単なる聴講者、お客さんにならないよう、積極的に参加すること。</p>	
12	6/26	<p>第6回公開講義 株式会社リンゴミュージックの樋川社長の講演を聴く。 本学の卒業生もメンバーの一人だったリンゴ娘を育てた社長から、地域再生×教育×農業振興×エンタメにける熱い想いを聴く。</p>	
13	7/3	<p>第7回公開講義 弘前れんが倉庫美術館館長の木村絵理子さんによる「AMRIGOKNアートフェスト、世界のアートの現在地」と題する講演を聴く。</p> <p>〈予習・復習〉この美術館ができた経過や所蔵作品についてリサーチしてみよう。</p>	
14	7/10	<p>第8回公開講座 ねぶた本番が近づいたこの時期、多方面での活躍が目立つネプタ師・立田龍宝氏による「ネプタ師の1年～私的ねぶた史～」と題する講演を聴く。</p> <p>予習としては、図書館やウェブ情報を活用しながら、ねぶた発祥の歴史や変化、経済的な効果等について整理してみよう。また、講師・立田氏がこれまで制作されたねぶたの写真等を探して見てみよう。</p> <p>復習として、ネプタの観光事業としての側面について調べ、考えをまとめてみよう。</p>	
15	7/24	<p>まとめ(考査) 「全8回の公開講義を聴き、今改めて『暮らしと地域』の充実と発展について私が考えることを書く」(小論文作成)</p> <p>授業時間内に1000字以上1200字以下で作成し、授業の終わりに提出する。 (後日提出は不可)</p> <p>必ず事前に下書きやメモを作成しておかなければ、時間内に合格点に達する小論文を作成することができる人は少ないものと思われる。ただし、そうしたメモ等は、考査時に持ち込むことは不可とする。</p>	
期末試験			

使用テキスト	なし。
参考文献 参考URL	授業の進行に合わせ随時紹介します。
備考	

開講年次・時期	1年前期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	「自然の生態系」	担当者名	佐藤敬
授業の概要	青森県、日本、世界における様々な生態系を概観し、特に身近な生態系の特徴を理解することを目的とする。また、人間と環境や野生生物との関わりを通して、生態系システムの捉え方や生物多様性保全の意味・在り方を考える。これらを通して複雑な現代社会における生活全般に係る課題の理解と対応に資する力を身に付けることを目的とする。アクティブラーニングとしては、反転授業を取り入れ、事前にTeamsに掲載する資料を視聴した上で授業に臨むことを求める。視聴確認のための小テストを実施する場合がある。		
科目の到達目標	① 生態学で扱う分野を理解し、学ぶことの意義を考える。 ② 青森県、日本、世界における様々な生態系を理解し、青森県の身近な生態系の特徴を説明できる。 ③ 人間と野生生物、生態系の関わりを理解し、説明できる。 ④ 地域及び地球規模での生態系システムの危機と生態系保全の方法を理解し、保全の意味を自分なりに考えて表現できる。		
授業時間外学修 (予習・復習)	なし		
フィードバックの方法	期末試験終了後、解答例をTeamsに掲載するので、間違いや足りない点などを確認して理解を深めること。		
単位認定の要件	到達目標の達成度を期末試験と授業中の課題によって問う。		
評価の方法・割合 (%)	期末試験80%、授業中に実施する事前学習確認や復習のための課題20%。いずれも記述式で、特に期末試験においては、理解に基づいた表現の妥当性も問う。		
履修上の注意事項	・疑問の点を積極的に質問するよう望む。 ・オフィスアワーは月曜日、13時から15時まで、場所は本部棟8階の学長室。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	4/11		テーマ:「イントロダクション」 授業内容:生態学とは。生態学と環境科学。環境主義の関係 予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間) 復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)	
2	4/18		テーマ:生態学と生物学 授業内容:生態学の基礎として重要な生物学を再検討する 学予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間) 復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)	
3	4/25		テーマ:生物地理学 授業内容:世界の自然環境と生態系 予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間) 復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)	
4	5/2		テーマ:日本の生物地理学 授業内容:日本の自然と生態系の特徴 予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間) 復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)	
5	5/9		テーマ:青森県の生物地理学 授業内容:青森県の自然と生態系の特徴 予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間) 復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)	

6	5/16	<p>テーマ:生物界の多様性</p> <p>授業内容:生物に共通の基本的特徴と生物の多様性</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を自重し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
7	5/23	<p>テーマ:エコシステム</p> <p>授業内容:生態系の構造と機能</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
8	5/30	<p>テーマ:進化から見た生態系</p> <p>授業内容:生物の個体適応と進化の関係</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
9	6/6	<p>テーマ:生物の適応と進化(1)</p> <p>授業内容:生物の個体適応と進化との関係</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
10	6/13	<p>テーマ:生物の適応と進化(2)</p> <p>授業内容:生物間相互作用と生態系</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
11	6/20	<p>テーマ:エネルギーと生態系</p> <p>授業内容:エネルギー需給と生態系との関係</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
12	6/27	<p>テーマ:動物の行動</p> <p>授業内容:動物の行動と生態系との関係</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
13	7/4	<p>テーマ:生物の個体数</p> <p>授業内容:生物の個体数の変動要因</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
14	7/11	<p>テーマ:地球環境と生態系の保全</p> <p>授業内容:生態系の人為的变化と気候変動の影響</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
15	7/18	<p>テーマ:生態系の保全を考える</p> <p>授業内容:生態系保全の方法</p> <p>予習方法:事前に公表するオンデマンド教材を視聴し、理解する(取組目安時間1時間)</p> <p>復習方法:講義ノートとオンデマンド教材を用いて復習する(取組目安時間1時間)</p>	
期末試験		期末試験において到達目標を中心に理解度を問う	
使用テキスト		なし	
参考文献 参考URL		原登志彦(監修)「大学生のための生態学入門」共立出版	
備考			

開講大学青森中央学院大学

開講年次・時期	2年前期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	「現代社会の諸相」	担当者名	オムニバス
授業の概要	<p>「現代社会の諸相」では、本学のそれぞれ異なる専門領域を持つ教員が、各自の専門領域から社会における様々な事象・問題についてオムニバス形式の講義を行います。</p> <p>現代の社会は高度に専門化しており、そのような社会において大学で修学している皆さんにも、これからより行動に専門的な知識や技能が求められてくることになります。もっとも、専門的な知識や技能を広く身につけることは容易ではなく、ある程度方向性を定めている人もいれば、まだ定められていない人もいます。</p> <p>本講義では、青森に関連するテーマから社会一般に関連するテーマまで幅広く取り扱いますので、まだ自身が目指す方向性が定まっていない人は、今後の方向性を探るため、また、既に方向性が定まっている人はその方向性を多角的に考えるための景気としてもらいたいと思います。</p>		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに関わる問題設定を自ら行い、それに対して自身の主張を展開できる。</li> <li>・テーマの内容を理解し、要点をまとめて記述することができる。</li> </ul>		
授業時間外学修(予習・復習)	なし		
フィードバックの方法			
単位認定の要件	この科目はオムニバス形式であり、各担当教員により評価基準が異なるため、各回での説明をよく聴くこと。		
評価の方法・割合(%)	各担当教員による課題(出題方法、評価基準は各々異なる) 第1回の出席点(2点)、第2回～第15回の各回の得点(各回7点)の合計点(100点満点)で評価		
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループディスカッションを行う場合には積極的に参加してください。</li> <li>・各担当教員が指示する予習・復習をしっかりとやり、レポート・課題提出の指示があった場合は期限厳守で提出してください。</li> <li>・授業中は携帯電話をかばんの中に入れてください。緊急の電話連絡に対応する必要がある場合は、一時的に教室外に出て、他の受講者の迷惑とならないように対応して下さい。</li> <li>・配布物はファイルなどに入れ、失なくさないように管理してください。</li> </ul>		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	4/11		<p>本講義のイントロダクション及び「青森県を支える労働法」 担当:原 俊之 &lt;概要&gt; (授業計画・概要、評価の方法・ルールなどについて概説した後、以下の講義を行う) 授業内容:青森労働局に寄せられた労働相談の内容や最低賃金審議会の議事録などを素材に、現行の労働法制が青森県においてどのような役割を果たしているかについて学ぶ。併せて、アルバイト先や就職先でトラブルに巻き込まれた場合に活用する相談機関や紛争解決制度を紹介する。 予習内容:「令和4年度個別労働紛争解決制度の施行状況」(Google検索すると冒頭にヒットする)を調査し、どのような相談が寄せられたのかを調査する(30分) 復習内容:講義中に指示した制度および裁判例を調査・確認する(60分)</p>	
2	4/18		<p>損益分岐点の売上高が分からないとマネジメントできない。 担当:井口 義久 &lt;概要&gt; 授業の内容:企業の儲けるビジネス・モデルは損益分岐点の売上高を超える目標売上高・営業利益のあること。 予習の内容:損益分岐点分析の費用である変動費・固定費について調べる。(1時間を必要) 復習の内容:儲けるビジネス・モデルと損益分岐点比率(安全余裕率)との関係をまとめておく。(1時間を必要)</p>	

3	4/25	<p>民法上の未成年者の保護 担当: 廣瀬 孝壽</p> <p>&lt;概要&gt; 私たちの日常生活では様々な取引行為がなされており、それに関するルールが定められています。ただし、全ての人に同じルールが適用されるわけではなく、判断能力や社会経験が未熟な未成年者には特別なルールが設けられて、未成年者は保護されています。本講義では、皆さんの今後の生活に役立つそれらの特別なルールを学びます。</p>	
4	5/2	<p>自治体職員の今と昔～時代とともに変化する仕事内容～ 担当: 小関 一史</p> <p>&lt;概要&gt; 自治体職員の職務外における自主研究活動の歴史展開を素材に、「9-5時」や「安定」というイメージのある自治体職員の実態と職業としてのやりがいの一端を学ぶ。今、自治体は民間経験者の経験者枠採用や専門職採用を行っている。このことは、就職先の選択肢としての視点だけではなく、市民の生活をサポートする役割を担う自治体の現状を市民として学ぶことでもある。</p> <p>予習 30分 自治体(市区町村)の取り組みについて、自分の関心のある分野(スポーツ行政や保険衛生分野など、どの分野でもよい)を調べ、「課題」と感じる事象を調べる。</p> <p>復習 60分 「地方公務員アワード」<a href="https://www.holg.jp/award/">https://www.holg.jp/award/</a>や「一年の計づくりに役立つ公務員本11選」<a href="https://www.jt-tsushin.jp/articles/research/special_books_2024_newyear/">https://www.jt-tsushin.jp/articles/research/special_books_2024_newyear/</a>等を検索し、関心をもった記事から「自分がイメージする公務員なら『行わないであろう行為』」に着目して読む。</p>	
5	5/9	<p>ポライトネス・ストラテジー –スムーズなコミュニケーションのために– 担当: 加藤 澄</p> <p>&lt;概要&gt; 言語学に、有名なPolitenessという理論があります。その中から、positive politenessとnegative politenessについて、身近な例を用いて、面白く解説します。普段の、教師と学生という立場関係を逆転させて、言語使用を考えてもらうことで、コミュニケーションのあり方の神髄をお目にかけます。また同時に、両者の立場上の、相互関係にも理解が及ぶことと思います。</p>	
6	5/16	<p>地域企業の「三創経営力」強化による地方創生 担当: 小松原 聡</p> <p>&lt;概要&gt; 地方創成における地域企業の果たす役割に焦点を当て、「三創経営」というコンセプトの適用により地域企業の価値創造能力を強化することが一つの大きな方向性であることを検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地方創成における地域企業の貢献のあり方</li> <li>・「三創経営」のコンセプトとそのような取り組みの必要性</li> <li>・「三創経営」の実現に向けた取り組み方法</li> </ul> <p>予習内容: 「地方創成」とはどのような取り組みなのか予備知識を得ておくこと。(15分)</p> <p>復習の内容: 本日の授業内容を、地方創成に求められているものと、そこにおける地域企業の貢献のあり方について、自分なりの考え方を含めて整理しておくこと。(80分)</p>	
7	5/23	<p>はじめての国際私法—国際結婚のなぞなぞ— 担当: 金 美和</p> <p>&lt;概要&gt; グローバル時代といわれる今日においては、多くの日本人が外国へ、そして多くの外国人が来日し旅行や仕事そして移住することにより様々な国際的私法上の法律関係が生じている。本講義では、身近な事例として「国際結婚」を題材にBGMにのせてストーリーを展開し、気になるクイズに答えてもらいながら進めていく。国際私法は法律学の展開科目であるが、法律初学者でも楽しく学べるように編集した講義である。</p> <p>(予習) 国際結婚とはどういうものかいろいろ調べてみてください。 (復習) レジユメを配信しますので、講義の内容を再確認してください。</p>	

8	5/30		<p>地域金融機関の再編と「産業の基盤形成」 担当：山本 俊 &lt;概要&gt; 現在、政策的な後押しのもと、地域金融機関の再編統合が進んでいます。これは金融機関の競争を抑制することで、顧客サービス等の質の低下をもたらし得る一方、再編統合後に得られる規模の経済性やシナジーなどによる経営体力の改善が図れる可能性もあります。よって、再編統合を進める地域金融機関には、顧客サービス等の提供状況をモニタリングしつつ、経営体力の改善を基にした地域金融の持続可能性を高めることで、地域産業に対する支援が求められます。こうした支援はSDGsの9番目の目標にもある「産業の基盤形成」にもかかわる重要な視点です。今回はこうした政策の是非や統廃合のメリットを検討します。 予習30分以上：プロクレアホールディングスのホームページから「当社子会社の「実施計画の履行状況報告書」(2023年09月29日アップロード)の第3章を中心に読んでおいてください。 復習30分以上：授業内で配布した確認問題を解き、理解を深めてください。</p>	
9	6/6		<p>大学生のためのキャリア・デザイン ～教育卒の視点から～ 担当：成田 昌造 &lt;概要&gt; キャリアは、皆さんが生涯をかけて自ら創り上げていくものです。キャリアの道を進む途中では、常に「選択」が求められますが、そのことが全てではなく、選択したものを自分自身でどのように「育てていくのか」の方が重要なのです。 皆さんが充実した人生を過ごせるよう、「キャリア論の理解」と「実践的方法論」を学び、自身のキャリアをデザインするための方途を模索します。</p>	
10	6/13		<p>日本の財政 担当：鈴木 芳美 講師：財務省東北財務局青森財務事務所 総務課 総務係長兼企画係長 畑井敬洋(はたい たかひろ)先生 &lt;概要&gt; みなさんは「財政」という言葉を聞いたことはあるかと思いますが、その意味をご存知でしょうか。 「財政」とは、国や地方公共団体が税金や借金で集めたお金を、公共サービスや公共施設のために使う経済活動を指します。 ところが、みなさんが暮らす日本は、この財政のバランスが崩れている状況です。 そこで、この授業では「なぜ財政のバランスが崩れているのか」、「バランスが崩れたままではどうなるのか」などについてお話したいと思います。 予習：不要 復習：レポートの作成</p>	
11	6/20		<p>裁判例から学ぶ社会問題 担当：中村 万里絵 &lt;概要&gt; 本講義は、受講者が現代の社会で問題となっている事件について法的な観点から整理、理解ができるようになることを目標とする。受講者は、実際に裁判で争われた事案を読み解き、自分自身の意見をまとめられるように学習する。 (予習)新聞やテレビなどで話題となっている事件について調べてみる。 (復習)授業で取り扱った判例・裁判例を読み直し、自分の考えをまとめ</p>	
12	6/27		<p>高度情報化社会における21世紀の新しい働き方 担当：畠山 光史 &lt;概要&gt; 1990年代以降、情報技術分野における技術革新は急速で激しく、現代の経済社会もまた大きく変化しています。このような状況下で、日本の企業・公的組織における働き方にも変化が生じています。この授業では、担当者の専門分野のひとつである「労働経済学」の視点から、伝統的な日本の雇用制度の変容と今後の新しい働き方の特徴について説明します。学生の皆さんは、この授業の内容を理解した上で、卒業後に職業生活を送る中で、基本軸としたいことをじっくりと考えてみてください。職業生活で問題解決のヒントになるはずです。</p>	



13	7/4	<p>多文化共生のための日本語 担当: 里見 文 &lt;概要&gt; 多文化共生とは、「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと」を指します。多文化共生社会の実現のために、私たちが日々使っている「日本語」を再度捉え直して、私たちに何ができるかについて考えてみたいと思います。 予習・復習: 予習(30分程度)これまでどのような「異文化体験」をしたか、その時あなたはどのように感じたかなどを小さいグループで話し合えるように準備をしてきてください。 復習(60分程度)あなたの住んでいる自治体では、多文化共生社会の実現のためにどのような取り組みをしているか調べてください。そして、あなたにできることは何かについて考えてください。</p>	
14	7/11	<p>面白い経営学の基礎的な考え方 担当: 姜 尚民 &lt;概要&gt; 経営学は私たちの日常生活と密接な関係があります。私たちの家計を管理することは実質的に個人の経営です。私たちは収入と支出を評価し、調整して私たちの目標を達成するために予算を設定します。これは企業が収益と費用を管理し、利益を追求することと類似しています。これを理解し、適用することで、個人的により良い意思決定ができます。授業では経営学の主要なキーワードと事例を中心に経営学の基礎的および主要な考え方について学習します。</p>	
15	7/18	<p>“お金”から見る法律の世界 担当: 柚原 愛子 &lt;概要&gt; “お金”という私たちの生活には切っても切り離せないモノ。その在り方は、昨今のデジタル化の進展により、各種キャッシュレス決済サービスという形でさまざまなバリエーションをとるようになってきている。本講義では、いくつかの事例に触れながら、お金をめぐる法の規律の一端を紹介する。お金という私たちに身近なモノの存在を通じ、受講者には、ちょっと特殊な(?)法律の世界におけるモノの見方・考え方に触れてもらいたい。</p>	
期末試験		なし	
使用テキスト		なし	
参考文献 参考URL		各教員より適宜紹介する。	
備考			

開講年次・時期	2年前期	授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	------	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	「防災と危機管理」	担当者名	大泉 常長
授業の概要	<p>本講座は、自然災害の危険から地域社会の安全・安心を守るための危機管理を学ぶ授業です。地域社会や企業社会における様々な不測事態(緊急事態)に対応するためには、自然災害が発生するメカニズムを理解し、想定された危機に対して、適切な計画と訓練を通して、危機を未然に防止する【危機対応能力】、もしくは、危機的状況をコントロールできる能力を身に付けるための戦略的危機管理を設ける必要があります。本講義では、天災・人災によって発生した各種緊急事態等の事例を通して防災の理論と実際を学び、具体的な対応術の習得を個人的ないし組織的で備えることを目的とします。特に本講座では、「日本防災士機構」が認証する「防災士」の資格取得を視野に入れているため学生諸君には地域消防署、日本赤十字社などが主催する「緊急救命実技講習」を受講してもらうこととなります。</p>		
科目の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「危機管理」の定義、メカニズムを通してリスクマネジメントとクライシスマネジメントの違いを説明できる。</li> <li>・危機管理の5段階をヒントに、「予知・予防」、「クラッシュマネジメント」、「学習」といった具体的な危機管理対応を構築できる。</li> <li>・日本人が危機意識不足に陥っている文化的、歴史的背景について説明できる。</li> <li>・自然災害における危機対応能力の向上などを目的とした訓練の構築の在り方について説明できる。</li> </ul>		
授業時間外学修(予習・復習)	<p>特に予定はしていないが、「防災士」の資格取得を考えている者には、別途救命救急講習及び講習会への参加(有料)が義務づけられている。</p>		
フィードバックの方法			
単位認定の要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・期末試験(100点満点)および毎回の講義で課される小課題(毎回7点)、レポート課題(20点)への解答</li> <li>①期末試験:穴埋め問題及び論述式の問題によって構成される。特に危機管理のメカニズムや危機管理の5段階、リスクマネジメントとクライシスマネジメントの違いについての理解度。東日本大震災で発生した大川小学校の津波災害にみる危機管理のリーダーシップの在り方についての分析を求める。</li> <li>②小課題:各回の授業内容を振り返るための内容を設定する。</li> <li>③レポート課題:テーマについては追って指示。課せられたテーマについて調べ、纏めたものに対しての自身の考えを記述する</li> </ul>		
評価の方法・割合(%)	<p>期末試験(50%)および毎回の講義で課される課題(50%)への回答</p>		
履修上の注意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>・【小課題についてのフィードバック】</li> <li>毎回講義の最後には、その日の授業内容に関する小課題(個人またはグループワーク)に取り組んでいただきます。翌週の授業の冒頭で課題内容に関するフォローを入れますので、授業の復習内容として、自分がどのような回答をしたか、およびその他どのような回答がありえたのかを考えて下さい。</li> <li>* 解答内容が明らかに質問内容と異なったり、不十分な記述だった場合、欠席と同等と見なされることもあるので注意して下さい。また、遅刻が確認できた場合、小課題の点数を3点減点、授業に出席していないにもかかわらず遠隔にて課題に解答した場合は、不正行為として大幅な減点を課します。</li> <li>* 小課題はTeamsを介しての出題となります。問題の確認及び解答に利用するので、できるだけPCを持参するようにして下さい。</li> <li>・【オフィスアワー】</li> <li>火曜日4校時</li> <li>質問等は各回の課題の解答と共に記載可。またはTeamsのチャット機能をご利用ください。</li> </ul>		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	4/11		(テーマ) 防災と危機管理について (授業内容) 今後講義内で展開する講義内容について説明します。 (予習の内容および方法) 「危機管理」の意味をインターネット等を通じて調べてみる(60分) (復習の内容および方法) 危機管理の基本的概念について講義内容のノートやメモを見返すこと(60分)	

2	4/18	<p>(テーマ) 危機管理とは何か (授業内容) 我々の実生活や様々な組織に求められる「危機管理」の定義とメカニズムについて学ぶ。 (予習の内容および方法) インターネットを通じて「危機管理」という言葉がどのような場面で使われているかを調べ、本国における事情について調べてみる(60分) (復習の内容および方法) 危機管理の定義について講義内容のノートやメモを見返すこと。(60分)</p>	
3	4/25	<p>(テーマ) 日本における危機管理 (授業内容) われわれの国日本は、文化的・歴史的様々な背景を元に危機意識が欠如している。日本人がそうした感覚を備えるためには何が必要か。「ムラ社会」「自然観」などから形成される我々の弱点について学ぶ。 (予習の内容および方法) 北海道で発生した「知床客船事故」について調べてみる (60分) (復習の内容および方法) 講義内容のノートやメモを見返すこと。(60分)</p>	
4	5/2	<p>(テーマ) 事例から学ぶ危機管理 「阪神淡路大震災」「東日本大震災」 (授業内容) 「危機管理」において重要なのは、過去の教訓から多くを学ぶことです。しかしながら、多くの日本人は熱しやすく冷めやすい性格を備えているため、欧米人に比べその足跡を忘却する傾向にあります。この回では、日本で発生した大災害について検証し、今後の日本社会に求められる危機管理体制について考えます。 (予習の内容および方法) 「阪神淡路大震災」「東日本大震災」における被害とその特徴について調べる(60分) (復習の内容および方法) 講義内容のノートやメモを見返すこと。(60分)</p>	
5	5/9	<p>(テーマ) 自然災害と防災 (授業内容) 日本は、地震、台風、津波、火山噴火など様々な自然災害が発生する世界でも極めてまれな国として知られる。しかしながら、多くの国民は自然災害に対する知識は限定されており、ここに対する準備が不十分であるという現実がある。講義では、これらの自然災害の特徴に触れ、われわれを取り巻く、自然について考える機会とする。 (予習の内容および方法) 近年発生した地震、豪雨災害などの自然災害についてインターネットなどで調べてみる(60分) (復習の内容および方法) 講義内容のノートや配布資料を見返すこと(60分)。</p>	
6	5/16	<p>(テーマ) 過去の自然災害からの教訓① (授業内容) 実際に発生した自然災害を例に、どのような問題を抱えていたのかについて、受講生各自が再発防止あるいは防災について考える機会としたい。 (予習の内容および方法) インターネットなどを活用し、様々な自然災害について調べてみる。(60分) (復習の内容および方法) 講義内のノートや配布資料を読み返すこと。(60分)</p>	
7	5/23	<p>(テーマ) 過去の自然災害からの教訓② (授業内容) 実際に発生した自然災害を例に、どのような問題を抱えていたのかについて、受講生各自が再発防止あるいは防災について考える機会としたい。 (予習の内容および方法) インターネットなどを活用し、様々な自然災害について調べてみる。(60分) (復習の内容および方法) 講義内のノートやメモを読み返すこと。(60分)</p>	

8	5/30	<p>(テーマ) 自然災害と訓練 (授業内容) 防災訓練とは何のために行うのか？現状として、全国の学校などで行われている訓練を検証しながら、本来あるべき訓練の姿について考える。 (予習の内容および方法) 自身も体験してきた数々の防災訓練などを振り返り、「その意味」について考える。(60分) (復習の内容および方法) 講義内のノートやメモを読み返すこと。(60分)</p>	
9	6/6	<p>(テーマ) 危機管理とリーダーシップ① 経営リーダーのリスク感性と危機意識 (授業内容) 危機対応におけるリーダーの立場について考える。実際は多くのリーダー達は、危機対応に十分な対応力を身に付けていない現状などを解説する。 (予習の内容および方法) テキスト第1章に目を通すこと (60分) (復習の内容および方法) テキスト第1章を熟読する(60分)</p>	
10	6/13	<p>(テーマ) 危機管理とリーダーシップ② 危機発生後の「初動対応」 (授業内容) 組織を例に危機対応におけるリーダーシップについて考える。企業などのリーダーには危機対応に際し、どのような能力が求めらるのか。こうした事例から地域防災におけるリーダーの資質について考えたい。 (予習の内容および方法) テキスト第2章に目を通すこと (60分) (復習の内容および方法) テキスト第2章を熟読 (60分)</p>	
11	6/20	<p>(テーマ) 危機管理とリーダーシップ③ リスク管理と危機管理 (授業内容) リーダーに必要な危機管理とその段階について解説する。 (予習の内容および方法) テキスト第3章に目を通すこと (60分) (復習の内容および方法) テキスト第3章を熟読 (60分)</p>	
12	6/27	<p>(テーマ) 学校の危機管理と防災教育の在り方 (授業内容) 近年、いじめや自然災害など、学校経営における様々な事件・事故が影響し、児童・生徒が命を落とすケースが増えている。ここでは、実際に発生した様々な問題を事例として扱い、学校組織における危機管理のあり方、防災教育や防災訓練のあり方について検討する。 (予習の内容および方法) 近年学校組織において発生している事件・事故などについて調べてみる。(60分) (復習の内容および方法) 講義内容のノートやメモを見返すこと。(60分)</p>	
13	7/4	<p>(テーマ) 事例から学ぶ危機管理 ~グローバル企業の失敗に学ぶ (授業内容) 危機管理が十分でない日本企業においては事故や不祥事が絶えず発生している。また際の不十分な対応が社会の不信感を生み、次のリスクへと発展している。この講義では、リスク管理を怠った企業の失敗事例をもとに、組織的な危機管理やリーダーシップなどの重要性について考える。 (予習の内容および方法) テキスト第6章に目を通すこと (60分) (復習の内容および方法) テキスト第6章を熟読する (60分)</p>	

14	7/11	<p>(テーマ) 改めて危機管理について考える (授業内容) 様々な事例を通し、危機管理に触れてきたことにより、序盤に耳にした危機管理について新たな認識を備えたことと思う。この回では、改めて危機管理のメカニズムについて触れるとともに、危機意識の向上具合を自己評価してもらうことを目的とする。 講義後半では、これまでの講義を振り返り、本国の危機管理に関する課題についてグループ・ディスカッションを行ってもらう。 (予習の内容および方法) これまで講義で扱った内容について各自振り返ってみることを薦める。 (60分) (復習の内容および方法) 講義内容のノートやメモを見返すこと。(60分)</p>	
15	7/18	<p>(テーマ) 総括 (授業内容) これまで14回の講義で取り扱った内容を振り返る。重要なことは、危機を予知し、それに対する備えをすることである。少なくとも、本国で発生し得る自然災害は予測可能で、これに対する備えをすることは決して難しくはない。受講生は、こうした現実に向け、今後、自分達ができる危機への対応について考える機会となる。 (予習の内容および方法) これまでの講義を振り返る (60分) (復習の内容および方法) 講義内で伝えた重要事項についてノートや資料を基にしっかりと纏めること。(60分)</p>	
期末試験			
使用テキスト		大泉常長「日本人リーダーは、なぜ危機管理に失敗するのか」晃洋書房	
参考文献 参考URL			
備考			

開講年次・時期		授業回数	15回	時間数	30時間	授業形態	講義	単位数	2単位
---------	--	------	-----	-----	------	------	----	-----	-----

科目名	「新事業構築論」	担当者名	中村 陽一
授業の概要	アフター(ウィズ)コロナの社会デザインとしての事業構築の考え方と方法論および事例を学び、今後新事業構築を考え、具体化していくための基礎を形成する。		
科目の到達目標	本科目は、担当教員が一貫して追及してきた社会デザイン(学)の思想的・学問的含意から実践的な社会技術としてのありようまで分野・領域横断的に提示し、とりわけ新事業構築(特にコミュニティビジネス/ソーシャルビジネス)の見取り図を描こうとするものである。受講者自ら当事者意識を持った新事業構築に取り組むことをめざしたい。		
授業時間外学修(予習・復習)	受講者の希望を見たとうえで、任意の自由参加による「自主ゼミ」を行うことがある(新型コロナウイルス感染症の状況をみつつ慎重に判断する)		
フィードバックの方法			
単位認定の要件	授業内容の基本的理解および受講者自身のリサーチクエスチョンの設定		
評価の方法・割合(%)	リアクションペーパーによるミニレポート:70% 受講姿勢:30%		
履修上の注意事項	本科目は授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、質疑・討論など、授業での積極的な参加を期待する。 また、多様な社会人とのネットワーキングや情報交換も可能。NPO/NGO、ソーシャルビジネス、社会デザインの現場との関わりを希望する受講者の希望があれば、極力応える。		

回数	予定	実施	テーマ・内容	方法
1	8/5		イントロダクション ワーク&ライフのソーシャル・イノベーションとしての新事業構築へ向けて～R・ライシュ教授「貧富論」講義から	
2	8/5		社会課題と社会デザイン 世界と社会の課題とは?社会デザインとは?	
3	8/5		社会デザイン最前線～理論と方法 社会デザインの3つの次元、イノベーション、社会デザインとアート、デジタル産業主義とデジタル分散主義、ウェルビーイング・エコミーなど	
4	8/6		小括1:社会デザインとは ここまでの整理と討議	
5	8/6		ワーク&ライフのソーシャル・イノベーションとしての新規事業構築へ向けて 社会状況の中でのパラレルキャリア、背景一起こっていること、サードプレイスと実践事例、社会デザインの方向性と可能性、あらためてパラ	
6	8/6		アフター(ウィズ)コロナの新事業構築から幸せ(ウェルビーイング)のための参加と協力を通して事業構築を考える ウェルビーイングへの5つの方法、キーワードの戦後史と現在-NPOと市民活動、営利と非営利の壁の変容、ムーブメントの起こし方の劇的	
7	8/6		ソーシャルビジネスとコミュニティビジネス 社会的背景(生活者との関わりで、企業の変化:進む企業の社会化)、SB/CS実践事例、その先を見据えて、日本のSB・CS(SB白書から)	
8	8/7		小括2:アフター(ウィズ)コロナの社会デザインとしての新事業構築 ここまでの整理と討議からビル・ドレイトン:チェンジメーカーとしてのアショカを中心に	
9	8/7		新事業構築の実践のために 人口減少・少子超高齢社会にあつて必要な発想の転換=逆転の発想、ブルーオーシャンとコレクティブ・インパクト、企業と社会課題との関係の変化、東郷フレームワークと価値創造プロセス	

10	8/7	「人新世」の社会デザインビジネス(新事業構築)とSDGs 再生力のある経済、ブルー・エコノミー、分散型エネルギー、再生都市 化-エコポリス、サーキュラー・エコノミー、金融改革、ドーナツ経済学、 グリーン転換、良き投資、幸福度評価、SDGsの展開とESG投資、 Nature is Speaking自然は語る	
11	8/7	アクション～社会実験(社会実装)への誘い(いざない) 社会イノベーター公志園という試み(序論)	
12	8/8	小括3:21. 5正規の新事業構築 ここまでの整理と討議	
13	8/8	社会イノベーター公志園という試み1 社会イノベーターたちの実践1	
14	8/8	社会イノベーター公志園という試み2 社会イノベーターたちの実践2	
15	8/8	まとめに代えて～21. 5世紀の新事業構築 全体を振り返り討議でまとめつつ、受講者自身の今後の学びの課題に つなげる	
期末試験			

使用テキスト	特になし。授業時に資料を配付することがある。
参考文献 参考URL	授業時に随時紹介する
備考	本科目は、授業回の全てにおいて、理論等学術的な知見を踏まえつつ、担当教員の実務家としての経験、または研究成果を活かし教員と学生との双方向の討論を重視した実践的な授業とする。学生には、質疑・討論など、授業での積極的な参加を期待する。 また、多様な社会人とのネットワーキングや情報交換も可能。NPO/NGO、ソーシャルビジネス、社会デザインの現場との関わりを希望する受講者の希望があれば、極力答える。